

# 有害プランクトン情報

(令和4年度 - No. 7)

千葉県水産総合研究センター

東京湾漁業研究所・生産技術研究室

千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	10月 第1回	内湾(8地点)	10/11,12	内房(7地点)	10/3
		10月 第2回	内湾(8地点)	10/17,19	内房(7地点)	10/17
		10月 第3回	内湾(8地点)	10/31		

## 東京湾(内湾)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- カレニア ミキモトイがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
  - ・ 10/11,12 富津沖, アクアライン北部, 羽田沖 最高密度は富津沖の0.2細胞/mL
  - ・ 10/17,19 千葉沖 密度は0.2細胞/mL
- カレニア ミキモトイ以外のシャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属は確認されませんでした。
  - ※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。
- 赤潮(透明度1.5m以下, pH8.5以上, 酸素飽和度150%以上)は第1回調査で確認されました。
  - ・ 10/2 内湾北部(浦安沖)で発生。珪藻(スケルトネマ属, シュードニッチア属, タラシオネマ属)の珪藻赤潮

### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

#### 1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

#### 2 下痢性貝毒原因プランクトン

- ディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
  - ・ 10/11,12 富津沖を除く全域 最高密度はアクア北部の1.2細胞/mL
  - ・ 10/17,19 千葉沖 密度は0.2細胞/mL
  - ・ 10/31 アクア北部～南部, 羽田沖および千葉沖 最高密度はアクア南部の0.4細胞/mL
- ディノフィシス ロツンダータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
  - ・ 10/11,12 富津沖～アクア南部を除く全域 最高密度はアクア北部の1.2細胞/mL
  - ・ 10/31 アクア南部～羽田沖 最高密度はアクア南部の0.4細胞/mL
- ディノフィシス コウダータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
  - ・ 10/11,12 アクア北部～羽田沖, 船橋沖および盤洲南部 最高密度は羽田沖の0.2細胞/mL
  - ・ 10/17,19 アクア北部および羽田沖 密度はいずれも0.1細胞/mL
  - ・ 10/31 羽田沖 密度は0.4細胞/mL
- ディノフィシス インファンディブラがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
  - ・ 10/11,12 アクア北部～南部, 羽田沖, 千葉沖～盤洲南部 最高密度はアクア北部の0.4細胞/mL
  - ・ 10/31 アクア北部～南部, 羽田沖および千葉沖 最高密度は羽田沖の0.4細胞/mL
- 貝毒の被害情報はありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

## 東京湾(内房)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- カレニア ミキモトイがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
  - ・ 10/17 浦賀沖および保田沖 密度はそれぞれ0.45細胞/mL, 0.30細胞/mL
- カレニア ミキモトイ以外のシャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属は確認されませんでした。

※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を发出します。

○ 赤潮は確認されませんでした。

**【貝毒原因プランクトンの出現状況】**

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

○ 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

○ ディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。

- ・ 10/3 第2海ほ沖 密度は0.1 細胞/mL
- ・ 10/17 第2海ほ沖 密度は0.3 細胞/mL

○ ディノフィシス ロツンダータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。

- ・ 10/11,12 第2海ほ沖および大貫沖 密度はそれぞれ0.1 細胞/mL, 0.05 細胞/mL

○ ディノフィシス コウダータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。

- ・ 10/11,12 浦賀沖および勝山沖 密度はそれぞれ0.1 細胞/mL, 0.15 細胞/mL

○ ディノフィシス インファンディブラがみられました。低密度ですが、注視が必要です。

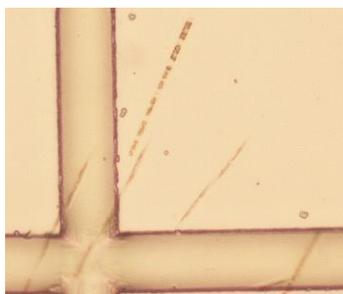
- ・ 10/11,12 第2海ほ沖 密度は0.4 細胞/mL

○ 貝毒の被害情報はありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

**○ 各海域で見られたプランクトンの優占種**

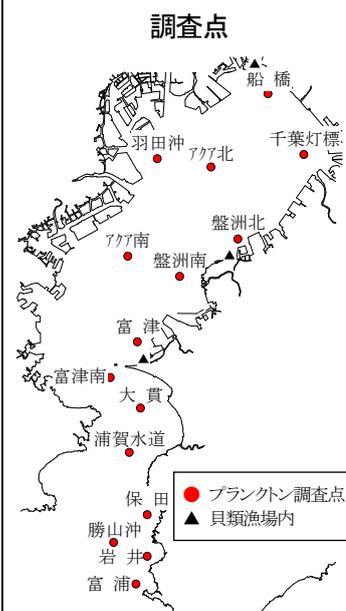
10/3,11,12	内湾・内房	珪藻タラシオシラ属, シュードニッチア属, アクティノプティス属など
10/17,19	内湾・内房	珪藻シュードニッチア属, キートセロス属, アクティノプティス属など
10/31	内湾・内房	珪藻シュードニッチア属, アクティノプティス属, 渦鞭毛藻プロロセントラム属など



シュードニッチア属  
(10/12 船橋沖)



アクティノプティス属  
(10/12 船橋沖)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp